

大学での学びを深めるため、将来の道を探るため、現在の自分の力を試すため、夏期休暇中に多くの学生が海外へ飛び出した。

商学部高橋義仁ゼミの有志学生は中国・大連での研修で、国際的に活躍する企業家に「働くことの意義」を教わった。

# 海外に飛び出した夏

## 寄稿

清水氏(左)から会社のマネジメントについて聞くゼミ生



## 国際的経営精神を学ぶ

商・高橋義仁ゼミ大連研修 千葉ますみ(商3)

経営戦略をテーマとする商学部高橋義仁ゼミの有志6人は、9月5日から9日まで、中国大連市で研修を行った。日本人起業家から企業経営を学んだり、パナソニックオートモーティブ&インダストリアルシステム社(パナソニックAS社)のグローバル基幹工場を見学したり、中国東北地方の有力大学である東北財経大学や遼寧師範大学で日本語を学ぶ大学生と学術および文化交流を行った。

大連毅信グループ代表の白石久充氏は、ITや貿易など幅広く手掛ける有志6人とともに、観光での民間交流にも取り組んでいく。『どんな仕事でも人のつながりを大切にすることが必要だ。そして、企画を考える際はその国の文化を学び視野を広げること』と伺った。

大連澤華服装有限公司の清水誠三氏は、服飾工場と鉄工所を経営している。『大連の人は活カにあふれていて、いいものはどんどん取り入れる努力をしている。マネジメントで必要なのは信用、良識、誠実さというところも学んだ』と私たちに語りかけてくれた。70歳代の清水氏の目は輝いていて、仕事と大連への愛情を感じずにはいられなかった。

学生の私たちがからすれば、仕事は決められた内容を淡々とこなしていくものという印象があったが、2人の起業家から自由な発想で失敗を恐れずチャレンジすることが大切であると学んだ。

パナソニックAS社の大連事業所(工場)は、世界の自動車メーカーに供給する電子部品の拠点である。ここで企業経営の国際展開を聞いた。まさに、工場内に技工学校が併設されており、従業員になるには、基準以上の成績を収めることが必要とされる。技能レベルとリーダーとしての資質によって任される仕事は異なる」という話を聞き、私たちが学んでいる時間を大切にしようという決意を新たにしました。ゼミ生

## ネット授業の学生と交流

文・板坂則子ゼミ台湾合宿 深沢歩花(文2)

文芸部日本文学文化学科・板坂ゼミ(指導・板坂則子教授)の21人は9月12日から3日間、台湾合宿を行いました。

合宿先は台湾北部の輔仁大学(新北市)。板坂ゼミは国際間のネットワーク共同授業や遠隔授業を海外の大学と展開しており、輔仁大学とは2006年から共同授業を行っています。板坂先生や輔仁大学の先生方のご厚意で、ネット上でしか会えなかった学生たちと交流することにしました。

初日、台湾の松山空港からバスで輔仁大学へ。日本語文学科の学生、ネ



輔仁大学で板坂ゼミ生集合



九份の町は不思議な雰囲気

は受診無料、リハビリやレントゲンなども受診で設置されているカフェの店員さんとも日本語を話しました。キャンパスは1時間では回りきれない広さでした。

その後、日本語文学科の学生と交流会を開きました。いくつかの男女混合のグループに分かれ、日本語で会話をしました。台湾のタピオカジュースやお菓子の話題、「中秋の名月」での日本と台湾との食べ物の違いなど盛り上がりました。

輔仁大学の学生はみんな日本語がとても上手な話者が弾み、あっという間に時間が過ぎました。今回の合宿の中で、最も充実した時間でした。こういった交流が日本でも海外でも定期的に行っていけたらいいなと思います。

一生の思い出になる台湾合宿でした。

牧野 成議さん(商4)

## ミャンマーの会計事務所で就業体験 世界の広さを実感



ミャンマーのティラワ経済特別区を見学



8月の1カ月間、牧野成議さん(商4、伊藤和憲ゼミ)は東南アジアで過ごした。ミャンマー・ヤンゴンの会計事務所で行ったインターンシップを行い、タイ・バンコクの経済情勢も学んだ。昨年度、公認会計士試験に合格した牧野さん。一足先に海外で実務を経験し世界の広さを実感した。「勉強を続けてきた

が、実践でより深く学びたい。将来、国際的に活躍したい希望もあり、授業で教わった高橋義仁商学部教授の紹介で、ヤンゴンの日系会計事務所でのインターンを決めた。

事務所は日本人が経営している日系企業が主な取引相手だが、オフィスで働き始める前に、甘さを知った。

コンサルティング会社に内定。「日本で働きたいから、どうやって海外にかかわっていくか考えていきたい」と前を向く。

から多くの質問をさせてもらった。『ここ中国を躍が楽しみです』など、励ましの言葉をいただいた。ものづくりの精神は引

き継がれています。今はグローバルに活躍できる時代。皆さんの将来の活躍が楽しみです』など、励ましの言葉をいただいた。ものづくりの精神は引



東北財経大学生、方愛郷教授(右端)と写真(左)遼寧師範大学で「日本の教育制度」について発表する高橋義仁有志代表の石井美沙(右)さん

東北財経大学と遼寧師範大学への訪問では、2人ずつに分かれ、学生向け、礼儀作法、教育制度、食文化という日本についての三つのテーマでプレゼンテーションを行った。東北財経大学では発表が終わるとすぐに、さまざまな質問を受けた。日本の学生はこのような場のみならず授業中에서도ささやかな発言をしない。中国の学生の学ぶ意欲の高さに圧倒され、普段の消極性を恥ずかしく感じた。また、日本での学生生活が「井の中の蛙」状態であることに認識させられた。

日程の最後に、大連の日本人向け経済誌記者からインタビューを受け、『When ever 大連』10月号に掲載された。大連での研修内容が机上では学ぶことのできない非常に充実したものであった。ここで学んだことを、これからの大学での勉学や、社会に出て働く際にも生かしていきたい。

学生同士で食事会も開いた。中国では日本のドラマやアイドルが流行しているようで、大連の学生のほうが私たちがよりも日本のアイドルに詳しく驚いた。